

富山県における花粉計測装置（KP-1000）による空中花粉計測

○ 寺西秀豊、福島千鶴子、加藤輝隆、何雲、稲寺秀邦（富山医科薬科大学 公衆衛生学）、林節男（富山県立大学短期大学部）、吉田行夫（婦中町）

【はじめに】富山医科薬科大学屋上で2004年より花粉自動計測装置を導入し観察を開始した。スギ花粉飛散は2004年には少なく、2005年は多かった。ここではスギ花粉飛散量と患者数との関係を報告する。

【方法】自動計測には、興和(株)リアルタイム花粉モニターKP-1000を使用した。空中花粉は富山医科薬科大学においてダーラム法で実施した。スギ花粉症患者数は富山県医師会花粉症対策委員会に登録された花粉症患者数を使用した。気象データは富山気象台のものを使用した。

【結果】自動計測ではスギ花粉蛍光粒子とされるGクラスは十分のカウント数が得られなかった。そこで、蛍光粒子総数（カウント総数）と患者数との関係を解析した。2005年3月1日から3月31日までの花粉症患者数とダーラム法、自動計測装置による総数を図示した。全体として、患者数と花粉総数に平行した変動が見られた。特に3月初旬には良い相関関係がみとめられ、3月1日から3月21日（スギ花粉飛散ピーク日）までの自動計測値と患者数の相関係数は $r=0.66$ ($p<0.01$) と有意の相関が得られた。

【まとめ】花粉自動計測は降雪の影響を受けるなどの難点もあるが、そうした問題点を克服できるなら、花粉症患者動向を予測する有用なシステムとなりうることを示唆された。

【謝辞】ご協力頂いた興和（株）の光本浩太郎氏に感謝します。

